

委員から出された意見

P I 外環沿線会議（平成17年12月1日）

「東京外かく環状道路（関越道～東名高速間）についての考え方」について

- 意見
- ・青梅街道インターチェンジからは南側へ行けないので、南側に向かう車が全部大泉へ集まるのではないかと
いう指摘に対し、国は交通量を予測して提案したと答えたが、いつ交通量の予測をしたのか。（武田委員）
 - ・青梅街道のハーフインターチェンジを提案する際に、「考え方」の条件で将来交通量を計算し直している。
（山本委員）
 - ・いくつか代替案をつくってどれがいいのかを計画段階で検討すべき。（濱本委員）
 - ・計画段階は計画の変更に向けてかなり固まった段階になるので、固まる前に住民に案を示してほしい。
（菱山委員（代理））
 - ・「考え方」は1つの案で、「考え方」への地元の意見を聞きながら計画の具体化をしていきたい。
 - ・地域で話をする際は、例えば複数案を提示しながら、メリットやデメリットを説明して意見を聞くようなこ
とを行いたい。（山本委員）
 - ・様々な意見から今の案よりもいい案が出たら、その案にすることもあるとの理解でいいか。（栗林委員）
 - ・「考え方」は1つの案として出しており、よりいい案が出てくればその案にすることはあり得る。（山本委員）
 - ・環境施設帯を整備するために新たに立ち退きを求められる世帯と立ち退き対象でなくなった世帯が出たの
で、計画概念図の発表前に説明会をしてほしかった。計画概念図の発表の経緯は何か。（渡辺委員）
 - ・前回の PI 会議で具体的な計画を出していきながら意見を聞いていくと説明したと認識している。（山内委
員）
 - ・計画概念図ほどの大きな変更を唐突に発表しては困る。昭和41年の計画発表と変わらない。（渡辺委員）
 - ・計画概念図は計画をあまり固めない早いうちに「考え方」に基づく絵姿を皆さんに紹介したく発表したもの
で、昭和41年の発表の仕方と大きく異なる。
 - ・決定したものを示した訳ではなく、皆さんのこれまでの意向を酌みながら公表したものである。（臼田委員）
 - ・大深度地下を活用した大断面・長距離トンネルの実現性について、技術的な課題を具体的に検討することを
目的として大深度トンネル技術検討委員会を設置した。【提示資料補足説明】（山本委員）
 - ・図面だけだとかえって住民をまどわすのでイメージ図であらわしてほしい。（栗林委員）
 - ・計画概念図では高さ等がわかりにくいので、正確に縮尺した模型を示してできる限りイメージをつかんでも
らおうと考えており、またCG等の様々な手法についても検討している。（山本委員）
 - ・外環周辺の標高差まで出さないと意味がない。（栗林委員）
 - ・関越ジャンクションの周辺には13の動線がある上、インターチェンジができるとさらに動線が増え、本線
が渋滞する可能性があるため、目白通りインターチェンジの出口を複数設けてほしい。
 - ・排気塔でどれだけ処理するかが大事で、地下できれいな空気に処理をして表へ出すという考えをもたなけれ
ばならない。（武田委員）
 - ・武蔵野市と三鷹市の間にある神田川あたりの地盤は他と違うこともあり、外環本線がどの程度の深さ
で通るのかを断面図の中に入れてほしい。
 - ・計画概念図の凡例の「地表部のその他の施設」のところに環境施設帯等を含むと記載してはどうか。
 - ・避難連絡口はどのような形で施工し、どの程度の間隔で設置するのか。（塩沢委員（代理））
 - ・避難連絡口の施工や間隔に関しては大深度トンネル技術検討委員会でこれから議論していく。（山本委員）
 - ・計画概念図では、都市計画道路3・3・11や吉祥寺通りが中央ジャンクションのところで切れているが、
この先はどうなるのか。
 - ・吉祥寺通り等から東八インターチェンジに入ってくる交通をどう予測しているのか、ジャンクションの中を
道路がどう通るのか等をもう少し拡大して住民にわかりやすく提示してほしい。（樋上委員）
 - ・吉祥寺通り等は中央ジャンクションで止まらず他の道路につながる。図面の充実化を早急に図りたい。
 - ・ジャンクション、インターチェンジがどうなるのかも早急に考えなくてはならないので、住民の意見を伺い、
地元区市とも協議しながら、提示していきたい。（山口委員）
 - ・いろいろな形の案を示し、住民にどれがいいか聞くという方が親切ではないか。（樋上委員）
 - ・外環が南進することによって練馬問題は今の状態よりも逆に悪化してしまうのではないかと。（江崎委員）

今後のPIについて

意見

- ・「外環計画ありき」で構想段階の議論が3年間続けられたことを反省している。
- ・なぜルートがここでなければならぬかを国、都から説明がほしい。
- ・いろいろなところで住民が発言した意見に対してしっかりと答えていない。
- ・練馬の問題を解決すると言っているが、いつまでに解決するかを国も都も何も言っていない。
- ・生活や環境への影響、少子高齢化、赤字財政など様々な不安の中で外環計画が必要かどうかを構想段階でしっかりと議論し、本当に大丈夫だとなってから計画段階に入るべき。(濱本委員)
- ・必要性の結論を出したが、住民の意向をどのように判断したか何も触れられていない。(栗林委員)
- ・今の状態では国や都の考え方には納得できない。構想段階の議論を続けていくべき。(江崎委員)
- ・様々な議論をした結果、国と都としては外環が必要であると考えている。
- ・沿線住民の質問に十分答えられていないことは十分認識をしており、環境や生活がどうなるのかを答えるためには具体的な内容を検討しなければならないので計画段階に入ったとの認識である。(山本委員)
- ・計画段階に入る前に会議の持ち方や時間管理等PI沿線会議のあり方の反省会をやるべき。(橋本委員)
- ・第13回のPI会議の際に、PI会議の進め方についてPI協議会も含めて非常に多くの指摘をいただいた。言い足りない分、改善点は指摘してほしい。(山本委員)
- ・前回のPI会議で提出した疑問点に対する答えを地域PIの前までにいただきたい。(江崎委員)
- ・日程を調整して地域PIの前に説明したい。(山本委員)
- ・全体のPIをどういうふうにするのかを決めないと議論ができない。(濱本委員)
- ・地域PIを進めて地域でいただいた意見を総括し、節目節目で皆さんに共通の話として話をする機会を引き続き設け、意見をいただきたい。(山内委員)
- ・絶えず全体のPIで一回議論をし、承諾をもらってから地域で説明するというかたちをとるべき。
- ・大泉、関町等の問題に特化したところでは、そこだけで議論をしなければならない。(武田委員)
- ・節目節目とはどういうことか。
- ・全体のPIでどういうことをやっていくかを皆さんに理解してもらいながら地域PIをやっていかないと、地域PIがおかしくなってくる。(濱本委員)
- ・地域に限定された問題は地域の話合いで処理し、その中で全体にかかわるもの、あるいは地域の意見を整理したものができた段階で全体のPIで皆さんから意見をいただく。(山内委員)
- ・今後の取り組みを整理したものがないままに計画概念図や地域PIの話が出てくるので、行き過ぎととられてしまっているのではないか。(武田委員)
- ・何のためにPIがあるのか、PI会議の委員を無視したようなことでは非常に困る。(岩崎委員)
- ・「考え方」と計画概念図を地域の方々に説明し、意見を伺う必要がある。【提示資料補足説明】
- ・「考え方」では地元の人にはわかりにくいとの意見もあり、もう少し具体化した計画概念図を発表した。【提示資料補足説明】
- ・沿線住民の方々が最も懸念する事項は環境への影響だと思っており、環境影響評価等で詳細な検討を行って、その結果を踏まえながら、外環の整備の判断をしていきたい。【提示資料補足説明】
- ・大深度トンネル技術検討委員会を踏まえて、外環がどのような断面になっていくのかを地域PIでは示して説明したい。(山本委員)
- ・意見交換会は意見を聴く会と同じことなのか。紛らわしいので同じ名前で行う方がいい。(植田委員)
- ・名称にはあまりこだわっていないので、わかりやすいならば、同じ名前でもいいと思う。(山本委員)
- ・杉並区の意見を聴く会が2時間しかないが、もう少し長く時間をとった方がいいのではないか。(植田委員)
- ・地域PIをこれから実施し、一段落してから全体のPIをしてはどうか。(江崎委員)
- ・各区市での地域PIが終わった段階は節目であり、終了後に全体のPIを開催したい。(山本委員)

その他

意見

- ・前回からの積み残しである技術専門委員会の委員長の見解に関して回答すべき。(渡辺委員)
- ・技術専門委員会の委員長の見解はいただいているが、もう少し調整して次回説明する。(山本委員)
- ・多摩地域における都市計画道路の整備方針の中間とりまとめの中に、地上部街路の必要性について書いてあったが、都で議論しているならば、先にPI会議に持ってきて議論をすべきであった。(濱本委員)
- ・地上部街路については外環本線と切り離して議論するとなっているが、多摩地域における都市計画道路の整備方針を知らない方が多いことに関しては、今後そのようなことがないようにする。(臼田委員)
- ・大深度トンネル技術検討委員会の資料の検討課題に具体的な目標を記入した方がわかりやすい。
- ・人間工学的な部分も配慮し、より安全に事故を起こさないようにすることを外環の構造の中にどう取り入れるかについても資料に盛り込んでおかなければならない。(遠藤委員)
- ・大深度トンネル技術検討委員会の資料には「大深度地下利用に関する技術開発ビジョン(抜粋)」と書かれており、計画の際に特に検討すべき点を抜粋しているという位置づけである。(山本委員)